

支 部 会 記 録

第 29 回 日本気管支学会北陸支部会

日 時 1999年11月27日(土) 13:00~17:30

11月28日(日) 9:00~15:50

会 場 富山市民病院

会 長 草島義徳(富山市民病院胸部血管外科)

1. 経気管支生検で虫卵と肉芽腫を証明しえた肺吸虫症の

1例 柴田和彦, 狩野哲次, 亀谷富夫(厚生連高岡病院
内科)増田信二(同病理)藤村政樹(金沢大学第3内科)

症例は44歳, 男性。喀痰, 咳嗽を主訴に来院。左舌区に結節影を認め, 気管支鏡検査を施行した。肺癌を疑い, 気管支鏡検査を施行したところ, 経気管支生検で数個の虫卵と肉芽腫を認めた。気管支洗浄液中にも虫卵を認めた。ウェステルマン肺吸虫に対する血清中抗体陽性で, 感染経路が明らかでなかったものの, 肺吸虫症と診断した。プラジカンテルの投与により, 陰影の改善, 血清抗体価の低下を認め, 有効と判断した。

2. 喉頭から気管にかけて存在した義歯を摘出した1例

市橋 匠, 飯田茂穂(市立敦賀病院外科)

症例は49歳, 女性。主訴は軽度呼吸困難, 有声音不能。1999年7月19日夕方義歯が落下, 直後より主訴が続くため当院受診。X-Pで喉頭~気管に3対の角を有する金属陰影あり。角の先端は鋭利で, 側面写真の分析からは頭側から数えて2番目と3番目の角の間に声帯が位置していると考えられた。喉頭ファイバーで観察後, ラボナール静注下喉頭鏡で除去を試みるも動かず。気管支鏡で観察すると右声帯が頭側から数えて2番目と3番目の角の間にはさまれており異物鉗子でつかむも動かないため手術室へ移動。局麻下皮膚横切開で気切後全麻に変更, ラリングスコープで回転力を加えて摘出できた。トルクの伝達ではラリングスコープが有用。右声帯の損傷は10月には治癒し, 声も正常化した。気切孔は皮膚ステープラで閉鎖したが, 内腔への露出がないため感染しにくく, 気切孔周囲が上皮化した例でも創の新鮮化を加えて成功しており, 美容的にも有用であった。

3. PCPSを要したDumonステント留置の2例 土岐善紀,

原 祐郁, 河とう芳正, 三崎拓郎(富山医科薬科大学第
1外科)菓子井達彦(同第1内科)斉藤光和(同第2外科)
田近貞克(済生会富山病院外科)

Dumonステント留置は, 中枢気道閉塞性病変に対し近年広く行われているが, 当科においてPCPS(経皮的心肺補助)が必要であった2例を経験したので報告する。症例1は左

B³原発扁平上皮癌に対する下葉切除術後の断端再発を来した75歳男性。腫瘍が気管分岐部を越えて中枢側に突出し, 左主気管支は完全閉塞。YAGレーザーを併用し右主気管支へのDumonストレート(CO type)のステンディングを試みた。術中の硬性鏡換気により腫瘍塊と凝血塊が健側気道末梢に嵌頓し換気不能に陥った。急速大腿動静脈からのPCPSを開始した。以後呼吸循環動態は安定し, ステンディング終了後手術室でPCPSより離脱した。症例2は進行胸部食道癌のため呼吸困難を来した68歳男性。著明に腫大した縦隔リンパ節により気管膜様部が圧排され, 分岐部は観察不能。自己換気不能に陥ったためスパイラルチューブを挿管し, ステント留置を計画した。硬性鏡システム下での人工換気は不可能であると考えられたため先にPCPSを開始した。内腔所見では気管の圧排は分岐部まで及んでいた。Dumonストレート(TD type)ステントを留置したが合併症なく終了しPCPSからは手術室で離脱しえた。PCPSは短時間で装着可能であり, Dumonステント留置の際, 硬性鏡下換気に難渋すると思われる症例にはよい適応である。

4. 経気管支肺生検により末梢気腔充満性出血をきたした

1例 辻 博, 良元章浩, 山内博正, 高桜英輔(黒部
市民病院内科)

症例は74歳, 女性。1993年肺結核と診断され, 抗結核療法が開始。1999年7月に陰影の増大が疑われ, 悪性腫瘍との鑑別を目的に9月2日経気管支肺生検を実施。生検後の気道内にはほとんど出血を認めなかった。生検後のレントゲン透視で, 右肺に急速に広がる陰影が見られ, 数分間で右-S²全体に広がった。CTで右-S²末梢気腔を充満した血液が認められた。すなわち生検に伴った出血は中枢気道に問わず, 末梢気腔を充満したものと推察された。採取された標本のサイズは約9mm。標本中に見られた最大の血管は, 直径500μmの気管支動脈だった。本例の出血量は50ml以上と考えられたが, 血液は末梢気道に向かい, 中枢気道にはほとんど出血を認めず, 窒息を免れた。このような出血様式は, 出血部位の中枢側がなんらかの理由で閉塞したために, 血液が末梢に向かって広がったものと考えられた。このような様式の出血は稀と考えられた。

5. 超音波気管支鏡下針生検が診断に有用であった肺小細胞癌の1例 安達康子, 菓子井達彦, 丸山宗治, 養

毅峰, 荒屋 潤, 小田寛文, 三輪敏郎, 荒井信貴, 松井祥子, 山下直宏, 小林 正(富山医科薬科大学第1内科)原 祐郁(同第1外科)